

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

| | | | | | | |
|--------|-----------------|---|--|---|--------------------------------|-----------------------------|
| P T A名 | 静岡県立浜松聾学校 P T A | | | | | |
| 学 校 | 対 象 | <input type="checkbox"/> 視覚障害 | <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 | <input type="checkbox"/> 知的障害 | <input type="checkbox"/> 肢体不自由 | <input type="checkbox"/> 病弱 |
| | 設 置 部 | <input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 | <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 | <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 | <input type="checkbox"/> 高等部 | |
| | 全校児童・生徒数 | 35名 | | | | |

1. 使用状況

| | |
|---------------|--|
| 寄贈物品名 | 電子黒板 (ディスプレイ型) |
| 使用学年及び人数 | 幼稚部7名 小学部16名 中学部12名 計35名 |
| 使用頻度 | 毎日 |
| 使用状況 | <p><始業式・終業式・学部集会などでの活用></p> <p>①文字情報の拡大表示 ・事前に作成した資料の他、UDトークやロジャー等の機器と連携して、音声を文字化するなどして、聞こえを補う視覚情報を表示している</p> <p>②電子黒板の機能の活用 ・校内ネットワークへの接続による資料の提示で視覚的支援を行っている</p> <p><各教科の授業での活用></p> <p>デジタル教科書の活用や、子どもの一人一台タブレットと連携し、投影した教材にタッチペンでポイントや解説を書き込んだり、友達の見方を一覧にして提示したり、視覚支援を活用した授業展開を行っている</p> |
| 物品の使用による変化や効果 | <p>①これまでは電子黒板の代わりに、プロジェクターとスクリーンを使用していた。プロジェクターは部屋を暗くしないと投影できないため、手話やキューサインが見にくい状況だった。電子黒板は部屋を明るくしたまま見ることができるので、画面と同時に話者も見ることができ、難聴児の学習環境に適している。</p> <p>②これまで以上に視覚支援を充実させた授業が展開されている。</p> <p>③教師にとっても、プロジェクターとスクリーンを運んで設置する必要がなくなり、いつでも据え置き電子黒板を活用できることは、多忙化解消につながった。</p> |
| 今後の活用の見通しや課題 | <p>年々、子ども達の一人一台タブレットとの連携や他のICT機器との併用が進んできているが、更なる活用に向けた校内研修を充実させていきたい。また、どうしても教師の活用能力に差があるため、校内研修やOJTを活用し、一人一人の技能を高めていきたい。</p> |
| その他希望や所感など | |

2. 活用の様子

- 始業式の様子 児童代表の言葉を拡大して表示している様子



- 小学高学年外部講師による講話 インターネットにつなげて情報を提示している



- 学部行事「新入生を迎える会」 式次第や事前準備した文字情報などを拡大表示している様子

